

---

令和3年

# 5月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

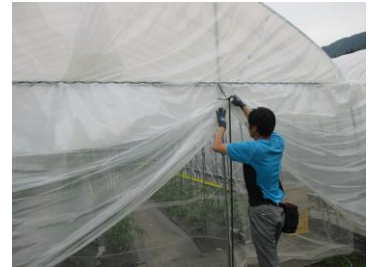
### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### 郡上農林■新規就農者 「郡上トマトの学校」卒業生への支援

郡上市白鳥町にて、就農研修拠点「郡上トマトの学校」の卒業生が、この春から夏秋トマト経営に取り組んでいる。

学校では4aのは場で2品種の栽培を学んだが、就農に際して初年度のハウス面積は14aとし、栽培しやすさを考慮して1品種に絞って栽培を開始した。研修中と比較し面積が3倍以上となるため、普及指導員と相談しながらハウスごとに栽培計画表を作成するなど、効率的な管理を工夫した結果、順調に作業が進められている。

今年度は定植直後に梅雨入りとなったことから、農業普及課では、梅雨の晴れ間に起こりやすい萎れに注意を促すなど、毎年異なる気象に戸惑うことがないよう、卒業生をはじめ経験の浅い新規就農者へのきめ細やかな支援を行っている。



【換気作業を行う  
新規就農者】

#### 可茂農林■研修希望者・美濃白川就農応援会議 研修生選考会実施

令和3年度から岐阜県「新・担い手育成プロジェクト」がスタートし、令和7年度までに2200人の新たな担い手の確保・育成を目標として取り組みを開始した。

5月24日、新たに就農を希望する男性1名に対して、美濃白川就農応援会議による研修生選考会が開催された。就農の動機、将来の農業経営などの考えを確認し、6月1日から白川町内で研修を開始することとなった。

農林事務所では、美濃白川就農応援会議の関係機関とともに、栽培技術の習得や地域との交流を通じ、白川町において新規就農者としてスタートできるよう支援を行う。



【選考会の様子】

#### 東濃農林■水稻・法人組織 担い手育成重点推進地域の活動支援

令和2年10月に設立された農事組合法人北小木営農に対して、今年度も引き続き担い手育成重点推進地域として支援を行っている。

5月20日、北小木地域の集落営農に即した機械導入を円滑に進めるため、法人及び行政とスケジュールの調整を行うとともに、今後の担い手確保や法人の営農方針について意見交換を行った。

農林事務所では今後も法人及び多治見市と連携しながら集落営農を支援していく。



【話し合いの様子】

#### 革新支援センター■普及指導員 専門技術習得研修（茶）・（果樹）の開催

新たな品目を担当する普及指導員に対し、技術習得を図るための専門技術習得研修を開催している。

5月11日、茶を担当する2名を対象として、(有)サポートいびが管理する茶園（池田町）にて第1回研修を開催した。茶の栽培技術習得を目的に乗用摘採機による1番茶の摘採や、摘採後の整枝作業を行った。また5月20日、果樹を担当する1名を対象として、中山間農業研究所樹園にて研修を開催し、研究員の指導のもと、モモ、リンゴの摘果作業の実習を行った。

今後、第2回目以降は現地の産地視察や調査活動を行い、現場の普及指導に生かすための技術習得を支援していく。



【研修の様子】

## 安心で身近な「ぎふの食」づくり

### 恵那農林■水稻（種子）・三郷米麦採種生産組合 優良種子の生産は健苗育成から

恵那市の三郷米麦採種生産組合では4月23日、5月7日、5月13日に組合員が育苗している苗の審査を行った。

今年度からはこれまで生産されてきた「あきたこまち」、「コノエモチ」、「コシヒカリ」に加えて、「あさひの夢」の種子生産が開始される。当日は、組合役員の協力のもと、農業普及課及びJAの職員が審査員を務め、苗の生育状況を確認した。4月後半から5月初旬にかけて低温傾向で生育が心配されたが、概ね生育の揃った根張り良い苗が出来上がった。今後、合格した苗を利用して5月末まで田植えが行われる。

近年、個人で育苗を行う組合員は半数以下となるなかで、大口の担い手農家や若い組合員の存在が重要になっている。農業普及課では、新しい品種や原種の栽培技術支援、若手生産者の技術指導に加え、現地研修会や圃場審査を通じて、優良種子の安定生産・確保に向けた取り組みを行っていく。



【苗審査】

### 下呂農林■スマート農業 今年度の水田作体系設計検討会が開催される

昨年度から下呂市金山町で取り組みを進めている「スマート農業加速化実証プロジェクト」の実証について、農業普及課では関係機関と連携して実証経営体への取組支援を続けている。

4月27日にコンソーシアム構成員である実証農家や、岐阜県、農林水産省及び農研機構がリモート方式で水田作体系設計検討会を開催した。当日は進行管理役である農業普及課から、実証目標や導入技術、R2年度の成果概要、R3年度の実証計画について説明した後、意見交換・情報共有を行った。

事業最終年である今年度は計画的に実証及び取りまとめを行い、その取り組みを広く情報発信するとともに、中山間地域におけるスマート農業技術の普及を継続して支援する。



【リモートで開催された検討会】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### 岐阜農林■だいこん ぎふ清流GAP

5月24日、ぎふ清流GAP証書交付式が岐阜県福祉・農業会館において開催され、古田知事が認定を受けた8つの組織・経営体に証書を交付した。

岐阜管内ではJAぎふだいこん部会に評価証書が交付された。だいこん部会は令和2年度より県GAP確認制度を受けていた。制度終了により、ぎふ清流GAP評価制度への申請を行い、評価を受けた。今回は42名中2名の農場評価を受けたが、今後は部会内での評価件数を増やしていく計画である。

農業普及課では、これからもGAPの取り組み推進を支援していく。



【評書を受け取る部会長】

### 西濃農林■ぎふ清流GAP 西濃管内では、県下最多の4者が取得

5月24日、ぎふ清流GAP証書交付式にて、西濃管内では下宮青果部会協議会ごうど下宮GAP組織、(有)JAにしみの興農社、(農)三郷、他1件の4組織・経営体が取得した。



【交付式の様子】

農林事務所はJAと協力し、農場評価シートによる内部審査や、本審査への立会と、結果に基づく是正指導等を行っている。下宮青果部会協議会ごうど下宮GAP組織が、第1回申請者の中で最高得点の評価を得るとともに、管内すべての組織・経営体が、最高レベルの「アドバンス」を取得した。今後も農業経営体及び生産組織、産地による食品安全・環境保全・労働安全の取組みとして、GAPの実践を支援していく

#### ※ぎふ清流GAP

農業生産工程に潜むリスクを管理し持続的に農業を行うための取組みで、農場の運営システムや手法を点数評価する。県が令和2年11月に運用を開始し、今回が初めての認定で、一定水準を満たす生産者は、ロゴマークを使用した消費者へのPRが可能となる。

### 揖斐農林■茶 **スマート農業機器「コンテナ式乗用型摘採機・トラックコンテナ」の実証**

5月3日に美濃いび茶宮地生産組合によるスマート農業技術の実証が行われた。

コンテナ式乗用型摘採機は、従来の袋取り方式の乗用摘採機と比べ、茶袋の取り換え作業がなくなり、摘採時間の大幅な短縮が可能となる。トラックコンテナは乗用摘採機から直接生葉の移し替えが可能で、補助者・運搬者の軽労化が可能となる。実証では補助者の心拍数を調査し、移し替え作業の軽労化により、心拍数が下がる傾向を確認できた。

近年茶生産農家が悩まされている摘採時の労働力不足の解消に向けて、今後も検証を行っていく。



【コンテナ式乗用摘採機の移し替え】

### 中濃農林■ゆず **病害虫被害軽減に向けた農薬展示ほの設置**

関市上之保地域のゆずはこれまで農薬を使用しない栽培を特徴としていたが、品質低下が問題となっていた。

そこで昨年度、農薬による防除の実証ほを設置し、5月中旬（開花前）、6月上旬（開花直後）、6月中旬（果実肥大始め）の3回の防除を実施したところ、外観品質が向上し、費用対効果が高いことが認められ、農家が実施可能と思われる防除体系が確立できた。今年度は「上之保ゆず研究会」の展示ほ場において、昨年同様に開花前の5月13日に1回目の防除を行った。

「上之保ゆず研究会」では病害虫対策を課題の一つと位置付けており、今後この展示ほ場で会員による研究会を行い、農薬の使用について検討を行う予定である。



【農薬散布の様子】

### 飛騨農林■スナップエンドウ **現地研修会で情報交換**

5月6日、丹生川野菜出荷組合スナップ・モロッコ班が春作のスナップエンドウ（以下、春作スナップ）の現地研修会を開催、生産者約30名が出席した。ハウス栽培、露地栽培の生産者各1名の現地ほ場を見学し、生育状況や栽培管理方法について情報交換が行われた。

春作スナップはまもなく収穫開始であり、農業普及課からはこれからの肥培管理や病害虫防除について説明した。生産者からは水管理や管理作業（脇芽かきや摘花）、追肥の間隔など、様々な質問が寄せられ活発な意見交換が行われた。

丹生川地区では5月15日ころから出荷開始予定。収穫が進むにつれて成り疲れが発生するほか、今年は例年より早い梅雨入りのため、病気の発生が例年より早くなると予想される。今後はこまめに巡回を行い、管理方法や病害虫防除について適切な支援を行っていく。



【みんなで生育を確認】